



原発は科学ではなく「神話」に基づいて作られた

原発では神話に依拠

福島第1原発では、原子炉建屋の中、格納容器のすぐ傍に、ポンプなどのモーターの制御盤を設置。格納容器から放射能が漏れたら、制御盤のメンテナンスも出来なくなるのに……。でも「原子炉で事故は起きない」という「神話」が生きているので、格納容器の傍らに設置。

水素爆発で制御盤破損

今回、水素爆発で、建屋が破損し、その制御盤も破損。放射能で修理も出来ないのでは、外部からポンプまで直接電線をつなぐ事になり、その作業を行った作業員が被爆。

制御盤を別棟に

制御盤を原子炉建屋内に置くのではなく、離

れた別棟に置けば、制御盤は原子炉にトラブルがあっても影響を受けない。発電所外部からの電気を受け取るようにする作業も容易。

万全の対策などあり得ない

「原子炉の安全の為に万全の対策をとっているから安全だ。だから事故は起きない」と云うのは「神話」に過ぎない。「ミスの可能性をゼロにはできない、未知の原因で事故が起こることもある」のだから「万全の対策などあり得ない」という目で原子炉の設計を見直す必要があると思います。皆さんはどう思われますか？

御殿場の平和公園

東名高速道路御殿場インター付近で箱根の方を見ると山中腹に白い塔と白い風車が見える。白い塔の下半分はドーム状で、その上に細い塔が立っている。



ミャンマーの仏塔「パゴダ」のようである。東京の「三徳」というスーパーマーケットの堀内定良社長が私財を投じて御殿場インターから1キロほど南に「平和公園」を作った。そこに日本山妙法寺があり、その仏舎利塔が「白い塔」である。その前には日本式の狛犬の他に沖縄のシーサー、そして、タイ、香港、インドなど、世界各国からの狛犬が並んでいる。